

ツバメ

誰かのために何かを
したいと思えるのが

「愛ということを知った
中島美嘉の『雪の華』
を聞いていたら、ある物
語を思い出した。

美しい幸福な王子の像
が立っていたという所か
ら始まる。そこへツバメ
が飛んできて王子の像の
足下で寝ようとすると、
突然王子が涙を流してツ
バメに、
「この場所から見える不
幸な人々に宝石をあげて
きて欲しい」

と言つて自分の両目の
青いサファイアと腰の剣
の真つ赤なルビーを渡し、
「まだまだ不幸な人々に
は自分の身体の金箔を剥
がして与えて欲しい」

と頼みます。ツバメは
その通りにしたが、王子
はみすぼらしい姿になり、
ツバメも南の国に渡り損
ねて寒さに凍え死んでし
まった。ぼろぼろになつ
た王子の像は心ない人々
に取り外されて溶かされ
たが、鉛の心臓だけは溶
けずに残り、ツバメと一
緒にゴミ溜めに捨てられ
てしまう。

その様子を見ていた神

様が、天使に、

「この街で最も尊いもの
を二つ持つてきなさい」

と命じると、天使はゴ
ミ溜めの中から王子の鉛
の心臓と死んだツバメを
持つてきます。神様は天
使を褒めました。そして
王子とツバメは永遠に幸
福になったという話です。

オズカー・ワイルドの
『幸福な王子』である。

自分のことはひとまず
置いて相手の事を考える
ことができれば、人の心
をとらえることができる
のではなからうか。

春先、ツバメが帰って
来るのが待ち遠しい。